

専門学校 東都リハビリテーション学院 学校関係者評価 2023 (R5) 年度

I. 教育理念・目標

- ・ 2024 年度入試より大学の「AO 入試」の名称から「総合型選抜」に名称変更、他の 4 種の入試名称も変更して実施するように決定されたことは最善の対策をとったと考える。
- ・ 学校の基本理念・教育理念に基づく各種ポリシーについて、学校案内、HP、学生募集要項、オープンキャンパス、学校説明会、高校ガイダンスなどで広報したことは評価できる。
- ・ 高校生への広報について工夫をされ、日々努めていると感じる。
- ・ 学校の宣伝も大切であるのは理解している。同時に専門職になるための学校であるため、入学・学校生活・就職先だけではなく、専門職としての魅力に触れ、職能団体の社会活動などにも触れると良いと思う。
- ・ 東都リハの強み、大学との差別化をもっと考える必要があると思う。専門学校としての強みがあるはずである。そのためにはシラバスの見直しが必要と考える。
- ・ 学校教育以外での行事プログラムは医療人としての人間性向上に必要と感じている。学校行事の内容については、適宜、点検・検証することを継続して頂きたい。
- ・ 理学療法の可能性はますます広がっている。世界の動向に目を向けながら、カリキュラム、外部講師も変更して行くことも必要と感じる。
- ・ 保護者とのコミュニケーションなどの努力が窺えるので、評価する。さらに保護者との連携も大事かと思う。学校の様子、講義の点数など、情報提供することも希望者には必要かと考える。
- ・ HP および、Instagram などによる情報公開は素晴らしいと思う。定期的に拝見させて頂いている。
- ・ HP は充実していると思う。さらに、HP 掲載のコンセプトなどはもっと広く協議するなどさらなる努力が必要ではないかと思う。
- ・ シラバス修正を評価します
- ・ 定例会議において業界のニーズと教育内容について協議するには、参加者が貴校の卒業生に偏らないように注意する必要がある。様々な出身校の業界関係者や臨床実習者となればより良い会議になると思う。
- ・ シラバスの作成、カリキュラムの修正は業界のニーズに沿って常時更新することが望ましいと思う。
- ・ 東都リハ学院の魅力を十分に発揮した、東都でしか学ぶことができないメリットを伝えられる教育内容にしていただきたい。
- ・ 人間性の教育について、教育内容とその成果が漠然としているように感じる。今後人間性の教育内容と成果について整理し明らかにしてほしい。
- ・ 学校教育以外での行事プログラムは医療人としての人間性向上に必要と感じている。
- ・ 学習意欲の高い社会人を積極的に受け入れることで、現役の学生も通常の学級より成長が期待できると感じている。リカレント教育を前向きに進めるのもいいと思う。

II. 学校運営

- ・ 学校説明会の充実等評価する。また、国家試験対策もとても評価できる。
- ・ 全国の受験生の減少と専門学校の学生の充足率・学生数とは関連していると考え。まだまだ試行錯誤していく必要があり、特色のある魅力的な学校づくりに期待したい。

- ・ 学校理念など学校開設時の創業者の思いなど、教員一人ひとりに伝え確認するためにも経営者を含めた親睦会など年に数回の開催を行うのはいかがか。
- ・ 授業内容・方法を改善し向上させる FD や、学校の管理運営や教職員に必要な知識及び技能の習得とその能力及び資質を向上させる SD は学校の体制改善と強化に重要である。時間をかけて授業内容と教職員の質の向上を目指していただきたい。
- ・ 教職員は学内で FD や SD などの講演会やワークショップを開催していただきたい。
- ・ パンフレットや HP、SNS により貴学の情報を公開されている活動は評価できる。引き続き H P 上に写真や動画を配信することは学校のアピールになっていると考える。
- ・ 国家試験合格率の向上のため、4 年生の国家試験対策を講じて、令和 5 年の国家試験を成功させたことを評価する。
- ・ 積極的に高校訪問、オープンキャンパスの時期の調整、オンライン学校説明会の開催など学生獲得の努力は評価できる。更なる企画や行事の考案・実施を期待したい。
- ・ 全校に関わる重要事項を教職員全員に通知する方法の周知と共有の徹底を継続していただきたい。
- ・ 教育活動等に関する情報の公開として引き続き H P 上に写真や動画を配信して頂きたい。
- ・ 情報管理体制の構築のための必要項目をあげ、早急に構築をして頂きたい。

III. 教育活動

- ・ 臨床実習で基礎力がない学生が 3 年生、4 年生に増えている。基盤の 1 年時、2 年時教育の試験、進級の判定を見直す必要があるのではないか。
- ・ 社会では情報漏洩のない情報伝達方法が求められている。学校でも早急に情報漏洩を防ぐ方を確立していただきたい。
- ・ 教員の知識、技術向上のために教員評価・授業評価を実施し検証すべきだと考える。
- ・ 各学生の教育が適切な科目配置、内容であるか検証し、シラバスの到達目標を具体的に示して、その到達度を評価できるようにしていただきたい。
- ・ 指導要領に基づき、カリキュラムが体系的に編成されているかを評価し検証していただきたい。
- ・ 科目間の連続性、関係性を明確にし、学生が学びやすい科目配列になるようにしていただきたい。
- ・ 貴学の教育水準を高めるために外部からの学校評価を続けることは重要だと考える。今後も学校関係者評価を継続していただきたい。
- ・ 情報管理体制の項目をあげて構築をして頂きたい。
- ・ 学会出張費の支援は学術レベル向上に必須である。引き続き継続を願う。
- ・ 教員の欠員が発生した時、速やかに代替りの教員を募集し採用されている。
- ・ 学術実績を向上させるために提携病院、関連病院と勉強会や共同研究をしても良いと思う。
- ・ 近年、理学療法士養成校の女子学生の割合が増えている。一方で、理学療法学科の女性教員の数が圧倒的に少ないのが問題となっている。貴校においても女性教員を育成し女性教員を積極的に採用していただきたい。
- ・ 博士等の学位も大事ではあるが、教育や理学療法士としての情熱を持った教員の採用も必要と考える。
- ・ 教員の知識、技術向上のためにも学会や研修会参加のサポートを引き続き望む。

- ・ 出張費、研修費など環境向上も重要と考える。

IV. 学修成果

- ・ 国家試験合格率 100%を目指し、実現して頂きたい。
- ・ 国家試験対策を組織的に実践しており、成果が出ていると感じる。
- ・ ほぼ就職率 100%が維持されていることは学生への安心につながるため、引き続き継続して頂きたい。
- ・ 国試対策教員に加えて、国試対策を目的としたゼミ制を導入して、専任教員全体で国試対策をしていることは評価できる。
- ・ 学年担当教員は定期的な面談を行い、学生の学業状況だけでなく、抱えている精神的・心理的問題があればそこにも対応していると思う。とても丁寧な対応だと思う。
- ・ 学校と同窓会の関係を深めるために、同窓会・学校教員主催の研究会・研修会の開催、卒業生との交流、卒業生からの提言を得るような活動を期待したいが、様々な理由で実現できていないようである。学校の取り組みとしては努力しなければならないと感じる。
- ・ 学校と同窓会の関係を深めるために同窓会に任せているだけでは実現できない。もっとこの問題に力を入れて貴校のインセンティブに繋げるべきではないか。
- ・ 卒後の知識向上を目指して、卒業生と学校の合同セミナーは重要と感じる。是非開催して頂きたい。
- ・ 貴校は卒業生の繋がりも厚いので、今後の同窓会の活躍に期待する。
- ・ 同窓会のネットワークは学術、共同、教育に活用できる。同窓会の活動を活性化させ学校との繋がりを深めることは両者にとって有益となると思う。
- ・ 研修会や勉強会は卒業生に偏ることなく、広く職能団体に会場を貸し出して門戸を開き、卒業生や学生がその催しに参加しやすいようにするといった方策が必要ではないか。
- ・ 立地を生かして会場の貸し出しを行い、卒業生には参加できる権利を与えるなどの配慮があると、もっと職能団体と連携できるのではないのでしょうか。
- ・ 同窓会の再会は卒業教育や横の繋がりに重要と感じる。

V. 学生支援

- ・ 学生の進路・就職に関する支援として、学年の担任教員だけでなく、必要に応じて全教員が学生の相談に応じる体制は概ね評価できる。
- ・ ハラスメントへの対応は担任や学生部が中心となり専任教員も加わって行っている。学校全体で支援している様子が見られる。引き続き継続して頂きたい。
- ・ ハラスメントに対応する組織づくりは途上にあり設置されていないので、早急に規則と組織の設置が望まれる。
- ・ 高等教育の修学支援新制度、日本学生支援機構、各種医療法人など、奨学金の申請支援が事務局中心に行われている。引き続き支援を行って頂きたい。
- ・ 学生の進路・就職に関する支援は担任だけでなく、学校全体で支援している様子が見られる。引き続き継続して頂きたい。
- ・ 学生からの奨学金、アルバイトなどの生活環境の相談については担任および事務局担当者で対応し

ており概ね問題ないと思う。

- ・ リカレント教育を希望する学生の受け入れに関する見直しを検討していただきたい。

VI. 教育環境

- ・ 3年前に検査測定機器、生理関連機器、運動生理機器、物理療法機器などを購入され、現在は大変良い環境であると思う。このような機器が講義にて活用されているようで評価できる。
- ・ 教員は毎年授業内容について検討し改善を目指しているようで今後も継続していただきたい。
- ・ 学習環境の工夫、改善は学習成果に影響を与えると考える。古くなった検査機器などを計画的に交換し、故障した機器は迅速に修理していただくなど、授業に支障がないようにしていただきたい。
- ・ 学校が所有する医療機器は定期的に故障の有無をチェックし、使用している機器、使用していないまたは使用しなくて良い機器かどうかを調査していただきたい。
- ・ 自然災害や事故を始めとする各種危機事案に対応するためのマニュアルを策定し、学生に教育していただきたい。
- ・ 学校において防災訓練を実施することは必要と思う。

VII. 学生の受入れ募集

- ・ 学生募集活動として、高校訪問、高校生への個別相談、オープンキャンパスと学校説明会、受験情報誌等への広告への情報掲載など努力されていると思う。しかし、入学学生数に繋がっているとは考えにくい。
- ・ 高校訪問時に得られる様々な高校生情報を吟味し新しいパンフレットや HP のコンテンツなどに生かすことが望まれる。

VIII. 財務

- ・ 中長期的な学校の財務基盤を安定させるためには学生の確保が優先課題である。中・長期の運営基盤の強化を図るために学生確保のための中長期計画の策定が求められる。
- ・ 将来性、社会性、継続性の観点から予算及び収支計画を常に検証し、不要な予算の削減と有効かつ妥当な整備・運用を推進していただきたい。
- ・ 財務情報公開の体制整備について、情報公開を充実させ、学校法人の運営の透明性を示していく。改正寄附行為に準じた適切な財務情報公開を図っていただきたい。

IX. 法令等の遵守

- ・ 法令および専修学校設置基準などを常に遵守し、適正な運営を行っている。今後も継続して適正な運営がなされることを期待する。
- ・ 学生に対する個人情報保護については「医療倫理」で教育されている。各学年担当により適宜指導されていて概ね良好と思われる。
- ・ 今後、あらかじめ公開の同意を得ておく必要があるため、個人情報保護法に基づき学校独自の個人情報に対する適正な取り扱いについて規定を設けることが勧められる。
- ・ 令和2年度より学校の自己評価が実施され、その結果を学校 HP（ホームページ）で公開を続けてお

り問題ないと考えられる。

X. 社会貢献・地域貢献

- ・ 2019 年度は地域に対する公開講座や教育訓練の受託などは実施されていなかったが、2023 年度は自治体からの要望等に対し講師派遣を行っている。徐々に地域貢献活動を活発化させるようにして頂きたい。
- ・ 主に高等学校での出張講義を実施し、医療・福祉領域での専門職の役割と業務について講演されていて評価できる。
- ・ 各地の中・高等学校や企業あるいは地方自治体に対し、HP によって地域貢献活動の情報として発信したらどうか。